

8次総「おおむね適正」

多治見市審議会が答申

多治見市総合計画審議会(会長・菊地裕幸愛知大地域政策学部教授)は31日、来年度から8年間の第8次総合計画案に関し、高木貴行市長に「おおむね適正である」と認めた」と答申した。

菊地会長、加知康之職務代理者(多治見商工会議所副会頭、東濃信用金庫理事長)ら委員7人が市役所で高木市長と面談。菊地会長が、市民目線で分かりやすい計画となるよう努めることや、2028年まで10万人維持、50年まで8・5万人維持と掲げた人口ビジョンの目標実現に向け、人口減

高木貴行市長(右から2人目)に答申書を手渡す菊地裕幸会長(同3人目)＝多治見市役所



少対策に腹をくくって取り組むことなどを求める答申

書を高木市長に手渡した。菊地会長は「市の先進性と課題を理解した。市民福祉の向上、持続可能な発展に向け、市民主役のまちづくりの推進を期待したい」

と語った。高木市長は「内容をしっかりと受け止め、市政運営に反映することを約束する」と述べた。審議会は学識者、産業界や市民・公共団体の代表ら

16人で構成。市長から諮問を受け、10月に3回の審議を行い、答申をまとめた。市は12月議会に第8次総合計画の最終案を提出する。

(小森直人)